

令和3年4月29日（木）開催

# ながの未来カフェ @オンライン

開催結果報告書

幸々実感都市  
『ながの』

～“オールながの”で未来を創造しよう～

長野市企画政策部企画課

2021.4

# I 「ながの未来カフェ@オンライン」について

## 1. 開催目的

本市では来年度、令和4年度（2022年度）を計画開始初年度とする、第五次長野市総合計画後期基本計画の策定を現在進めております。

計画の策定に向け、市民の皆さんからのご意見を伺う機会として、オンライン形式のワークショップ「ながの未来カフェ」を開催しました。

今回いただいたご意見については、後期基本計画策定の参考とさせていただくとともに、関係する部署へ情報提供という形で、個々の計画や事業の参考とさせていただきます。

## 2. 開催概要

### ① 女性の部

テーマ	1 「長野で子育てしていて楽しいですか？」 2 「子育て以外の自分（仕事・息抜き）はなにしてる？」
開催日時	令和3年4月29日（木） 10時00分～12時00分
開催方法	オンライン形式
対象	長野市に在住、または長野市出身の方
参加人数	19人

### ② 若者の部

テーマ	1 「長野を訪れたいと思えるまちにするには？」 2 「長野で働きたいと思えるまちにするには？」 3 「長野で暮らし続けたいと思えるまちにするには？」
開催日時	令和3年4月29日（木） 14時00分～16時00分
開催方法	オンライン形式
対象	長野市に在住、または長野市出身の方 高校生以上、25歳未満の方
参加人数	10人



## Ⅱ ワークショップの内容

### ① 女性の部

テーマ「長野で子育てしていて楽しいですか？」  
【子育て・教育について】

#### 子育てについて

- ・会社勤めをしていると、急な発熱や子供の体調不良時に困ることがとても多い。
- ・子ども連れのお母さんや子どもがもう少し安心して歩いたり、バスに乗ったりできる環境があったら良いと感じている。車の運転マナーも気になっている。

#### 相談場所

- ・子育て中の悩みを相談できる場所が少ない。

#### 親子の居場所

- ・「じゃんけんぽん」みたいに時間に縛られず、気軽に行ける場所があると良い。
- ・子どもと一緒にいける場所が少ない。情報も限られている。ひとつの情報サイトに、場所やイベントが集約されていると助かる。
- ・イベント情報や子供の安心出来る遊び場など、情報が集約されていない。Web、紙面媒体、集約した情報公開をもっとして欲しい。
- ・出産後のお母さんが行く場所が少ない。
- ・お母さん同士で話せる相手がいる場所が欲しい。
- ・出産後の母親支援について、教えてくれる人が少ない。特に出産から復職までの間に頼れる所（人や場所）が少ない。

#### 公園

- ・真夏で遊具が熱くなる時間帯があって危険な時がある。雨の日に子供が走り回ったりできる全天候型（屋根付き）の公園があると良い
- ・子供も大人も楽しめるような施設があると良い。県外と比較するとあまりない印象。

#### 食

- ・保育園の給食やおやつに関して、もう少し子供にとって体に良いものを出してもらえると有難い。
- ・首都圏から引っ越してきたが、食に関する意識の違いが感じられる。有機農業や無農薬野菜への関心の低さに驚いた。

#### 教育について

- ・発達障害の子の子育て中。就学後、支援学級、不登校の可能性はある。経済的な負担なども含めて、子どもの将来の選択肢が狭まることへの心配が今は大きい。
- ・発達障害のお子さん、自分の子どもの頃よりもいらっしゃる印象。
- ・発達に関わらず支援が必要な子が沢山いるのに先生が足りていない、支援が足りていないと感じる。

#### お金

- ・子どもの進学にかかる費用が心配。
- ・経済的な格差が広がっている。行政の支援が必要。
- ・コロナの影響もあり、食べるのにも困っている人がいる。ボランティア団体等で学習支援、リサイクル活動をしているが、知られていない。

## テーマ2 「子育て以外の自分(仕事・息抜き)はなにしてる？」 【ワークライフバランスについて】

### ワークライフバランス

- ・仕事と子供のことと家事、それ以外のことをする時間的な余裕が全然なかった。
- ・子育て中心で、あまり活動してない。
- ・体調を崩し、子育てと仕事の両立は難しいと思って仕事を辞めた。それから自分のアイデンティティを確立できずに悩んでいる。
- ・ワークライフバランスは、自分時間の確保、休養という意味で大切だと感じている。引退後にどのように生きていくかの地盤作りに時間とお金を投資するのも重要。また、再雇用などで長く働く時代なので、40代以降の働き方を考えなくてはいけないと感じている。

### 自分のための時間

- ・家族の協力なく、1人で趣味や活動をすることは厳しいのが現状。
- ・家族の協力があって、ボランティア活動を行っている。
- ・子供が寝た後、録り貯めた番組を見るのが楽しみ。
- ・会社勤めをしていた時は、子供と離れる時間があることが逆に気持ちを安定させてくれていた気がする。でも、仕事と子供のことと家事、それ以外のことをする時間的な余裕が全然なかった。
- ・自宅と会社の往復で日常が終わってしまう。そこから事を起こすのは難しい。自分も人との出会いがあって変わっていった。場やきっかけを提供すると、参加する人が多いと感じた。
- ・退職した義母に子供を預けることができ、自分の時間を確保している。
- ・自分の趣味に子供たちを巻き込んで、一緒に楽しんでいる。
- ・「母」ではなく「自分」でいられる時間は本当に大事と感じている。

### 学びの場、母親同士のつながり

- ・働く女性のキャリア形成の交流の場、大事。
- ・自身の職場に女性管理職のロールモデルがない。また、中小企業には、女性の教育モデルがない。
- ・若い世代が女性の管理職教育を受けないと管理職昇進を断ってしまうのは当然。
- ・自分がUターンだったこともあるが、自分の趣味の繋がりなどから、徐々に関係を作っていった。若い人達はゆるく繋がることを望むのではないか。
- ・今後大事になるのは、「コミュニティ」だと感じている。複数のコミュニティにゆるく属することで、悩み相談を適材適所で行うことができたり、他のコミュニティの情報も入ってくる、依存せずに自立し合える関係が築けるなどメリットがたくさんある。

### その他

- ・東京の会社に勤めながら、自宅は長野といった人、二拠点の一箇所として、長野で暮らしたいという人等々。そういう方達が仕事をする場が、長野には少ない。交流もしながら、自分の仕事もできるような拠点が長野にあれば、多様な働き方をする人の受け入れ先になるのではないか。
- ・社会のことや、ビジネスのこと、地域課題のことや自分のアイデアなどを意見交換し合う場が欲しい。

## ① 若者の部

テーマ | 「長野を訪れたいと思えるまちにするには？」

### 長野市の強み

- ・人の温かさは都会にはない強み。
- ・都市部と自然のバランスが良いと感じる。

### 長野市の弱み

- ・市の中心部は公共交通機関があるが、中山間地域は不便。市内でも差がある。
- ・観光客からすると公共交通が使いにくい。電車でSuicaが使えなかったり、バスも専用ICカードか現金というのは不便。

### 観光

- ・農業ができる宿泊プランなどで非日常を味わえる。人が来る。
- ・普段の生活では体験できないものがあれば惹かれる。都会では体験できない世界観、観光資源を作れたら観光客は来る。
- ・善光寺、精進料理を活かす体験型の観光。
- ・善光寺や戸隠等、観光地はあるが、若い人が行きたいとか思えるようなものがない。
- ・冬場に人気のスキーやスノボを活かした取り組み。
- ・長野は自然が多い都市なので、もっとアクティビティができるような施設を駅近や郊外地に作ってはどうか。
- ・善光寺以外の施設への観光客誘致が必要だと思う。
- ・長野へ車で来る人だけではない。レンタルサイクルが利用できる環境が良い。土地勘がない中で駐車場を探すのも苦勞するので、レンタルサイクルは移動手段に適していると思う。

### 街並み

- ・電線の地中化などを行い、善光寺周辺もそういった昔の風景、歴史ある街並みが味わえる雰囲気になれば、インバウンドの観光客もそういった風景を求めて来ると思う。
- ・長野駅から善光寺へ向かう道中にカフェができておしゃれ。スタバの外見が良い。仲見世から外れた脇道の店がおしゃれ。レトロなお店。リノベーションが良い。

### 移住

- ・松本、上田と比べると大型のショッピングモール等の目立った施設がない。長野駅周辺に飲食店はあるものの、買い物に行く先がない。そういった施設が長野市のどこかにあると良い。

### 国際交流

- ・もっと外国人観光客を受け入れる雰囲気がほしい。
- ・文化の違いもあってか距離を感じることがある。受け入れる側の理解も進んでいない面がと思う。
- ・文化やマナーの違いはあるが、日本人が変えなくてはいけないものではないし、日本について深く勉強してから来てというのも、インバウンドを呼びこむという観点では違うので難しい。

### その他

- ・信濃美術館があるが、展示の内容は年齢層が若干高めな気がする。もっと幅広い年齢の人が楽しめる展示内容になると良い。



## テーマ2 「長野で働きたいと思えるまちにするには？」 (活力あるまちづくり)

### 働きやすさ

- ・子どもがいても、満足には働けるように保育園などの施設がしっかりしている。
- ・定時退社とまでは言わないが、プライベートも大切にできる勤務形態。
- ・定時退勤やフレックスタイム制などがしっかりしている企業があればあるほど良い。
- ・休みの権利を使いやすい雰囲気。
- ・職場の中でも子育ての相談などができるなど、思いやりあえる職場だと働きたいと思う。
- ・男女問わず子育てを支援してくれる会社。
- ・女性だけが育休をとるのではなく、男性も女性と変わらずに育休をとること推進している会社があってほしい。
- ・リモートワークなど環境が整っているのであれば、長野に住み続けたい。

### やりがい

- ・自分のした仕事が、どう社会に活かされているか、貢献しているか、まわりの人にどう波及しているかが可視化されている職場だと、やりがいを感じる。
- ・どの職種でも社会の役に立っているはず。ゴール（目的）が見えていないと働きづらく感じる。
- ・自分の周り、身近な部分だけを見て仕事をするのではなく、グローバル化の中で世界にも目を向けて仕事をしたい。
- ・地域に根差したことをやりたい。地域の伝統・残っているものを残していきたい。それに携わる仕事をしたい。

### 働き方

- ・最近副業も推奨されていると思う。農業をもっと身近にできるようになったら嬉しい。自然が好きな人であれば、副業でできる環境があればいい。
- ・いろいろなことが経験できる働き方があったらいい。

### その他

- ・コロナ禍での看護師のお子さんの保育園預かり拒否などが報道されていたが、そういった特定の業種に対して偏見がない地域であってほしい。

### テーマ3 「長野で暮らし続けたいと思えるまちにするには？」 (住み続けたいまちづくり)

#### コミュニティ

- ・長野は閉鎖的と言われることもあるが、逆に言えば、他で失われつつある実践的なつながり、すぐに助け合えるつながりが残っているということだと思う。
- ・コミュニティは大事だが、生活のすべてがそこに縛られると辛い。がちりとしたコミュニティではなく、ゆるいつながりを考えていく必要がある。
- ・小学校の頃は育成会活動があったが、中学からそういった活動はなくなった。保育園や幼稚園といった小さな頃から継続して地域と関わっていくことが大事。
- ・防災力をつけることで地域とのつながりが強くなる。コミュニティが広がったりする。いろいろな場面で支え合える地域になる。

#### 防災・減災

- ・今後起きるであろう災害への対策がしっかりしている。
- ・防災マップはあるが、自分は大丈夫だろうと思う人がいて、避難につながっていない。市民の防災意識が高まれば、暮らしやすいということになるのではないか。
- ・周りの大人を見ていても、避難行動をとらない人が多い。学校では避難訓練はやっていると思うが、活かされていない。地域（家族を含めて）の防災の意識が低いと感じる。
- ・防災・減災は幼少期からの防災意識の醸成が必要だと思う。まずは興味を持ってもらう、きっかけを作ることが大事。

#### 環境

- ・暮らし続けたい＝環境に配慮されたまち。
- ・山と海はつながっている。山の整備に力を入れる必要がある。
- ・再生可能エネルギーの利用促進のため、市が地域で再生可能エネルギーに取り組む事業者を応援したり、市民が使用しやすいような仕組みを作ってもらいたい。
- ・環境に配慮された街。長野は緑が多いので、それを活用する。子どものうちから、森の中で遊べる環境、観光客も来るし、子育てもしやすいし、メリットがたくさんある。

#### (公共) 交通

- ・自動車での移動がメインとなっている状況なので、交通問題の解消は図っていく必要がある。
- ・自動車を利用している人が、公共交通をもっと利用した方がメリットがある仕組み、通勤手当を手厚くするといった利用を促進する施策が必要。
- ・自転車移動しやすい環境の整備。環境への負荷軽減にもつながる。

#### 子育てしやすい

- ・公園が整備されていて、適切な管理がされている。
- ・広くて、自然に触れることができ、子供も遊べる公園がある。
- ・幼稚園や保育園に待たずに自由に選んで入れて、安心して子供を預けられる。

#### 教育

- ・部活動に関しては、好きなことができる環境。部活動に参加することが当たり前になっている、改善する余地はあるのではないか。選択肢が広いと良い。

#### その他

- ・介護している家族へのサポート、支援がしっかりしている。
- ・行政から支える家族の側へも積極的に支援してもらえると、介護しやすい環境となり、暮らし続けたいと思うのではないか。

### Ⅲ 参加者からの声

#### 1. アンケート実施概要

- ① 調査時期 : 2021年4月30日～5月21日
- ② 調査対象 : 「ながの未来カフェ@オンライン」の参加者29名
- ③ 調査方法 : 電子メールによる配信・回収
- ④ 有効回答数 : 15名
  - 内訳 女性の部 : 12名
  - 若者の部 : 3名

#### 設問1 オンラインでの開催について

1	参加しやすかった	10名
2	どちらともいえない	5名
3	参加しにくかった	0名

##### 「参加しやすかった」と回答した理由（一部抜粋）

- ・初めての人に直接会わなくてよいので、敷居を低くしてくれた印象がある。
- ・集合場所への往復時間もいらず、自宅だとweb環境が安定しているので、安心して参加できた。
- ・Zoom開催の方が気軽に参加できて良い。
- ・子どもがいる中でも、家の中で自由に参加することができ、子育て世代には有難い手法だと思った。

##### 「どちらともいえない」と回答した理由（一部抜粋）

- ・話すタイミングが重なってしまうことがあり、対面の方が表情もわかるし、話はしやすいと思う。
- ・タイムラグや一斉に話すとわかりにくい面もある。また、整理して話すまでの時間に個人差があったり、聞いてから話すという手順を踏むと時間がかかると思う。
- ・自分は発言することができたが、順を追って発言できるタイミングや時間が公平ではなかった。

##### その他

- ・オンラインは地理的に遠い人も参加できるメリットがあるため、オンラインと対面と2パターンがあると、より多くの人に参加してくれると思う。
- ・コロナ禍が収束した後でも、ハイブリット形式（対面とオンライン）は残してほしい。

#### 設問2 時間設定について

1	適切だった	8名
2	どちらかといえば適切だった	2名
3	どちらともいえない	0名
4	どちらかといえば適切ではなかった	3名
5	長かった	0名
6	短かった	2名



「適切だった」「どちらかといえば適切だった」と回答した理由（一部抜粋）

- ・休日や夜間、仕事以外の時間が良かったので参加しやすい日程だった。
- ・あれ以上長いとだらけてしまうし、グループワーク形式での時間も丁度良かった。
- ・意外とあっという間に時間が過ぎたという印象。ところどころ休憩を入れてもらったのは助かった。
- ・子どものお昼寝の時間とかぶらずに、有難かった。
- ・自分の話したいことは全て話せたうえで、時間通りに会が終了したから。

「どちらかといえば適切ではなかった」「短かった」と回答した理由（一部抜粋）

- ・1つのテーマに対して話をする時間が短かった。
- ・感覚的には短かった。もっと話したかった。
- ・各グループ内での話し合いの時間は丁度良いと思うが、各グループからの意見を取りまとめる時間が不足してたように感じた。
- ・自分の考えをまとめる時間がもう少し欲しかった。

その他

- ・時間は特に問題ないが、GWの初日という日程が適切ではなかった。
- ・全体の時間配分を意識して、進行してもらいたかった。

### 設問3 テーマ設定について

1	わかりやすかった	5名
2	どちらかといえばわかりやすかった	6名
3	どちらともいえない	1名
4	どちらかといえばわかりにくかった	0名
5	わかりにくかった	3名

「わかりやすかった」「どちらかといえばわかりやすかった」と回答した理由（一部抜粋）

- ・内容が絞られていて良かったと思う。
- ・割とざっくりとしたテーマだったので、グループごとにいろいろな意見が出しやすかったのではないのでしょうか。
- ・抽象的ではなく、具体的なテーマだったため考えやすかった。

「わかりにくかった」と回答した理由（一部抜粋）

- ・テーマが幅広かったので、自身の発言の焦点が絞れなかった。
- ・テーマが多すぎる。テーマを減らして、絞って話がしたかった。
- ・若者として考えたことがないテーマもあり、想像で答えてしまうものもあった。

その他

- ・子育てに特化する内容だったので、お子さんのいらっしやらない方がどのように感じられたか心配だった。
- ・テーマが事前に十分に周知されておらず、困惑してしまった。

#### 設問4 未来カフェ@オンラインの進行について

1	発言しやすかった	6名
2	どちらかといえば発言しやすかった	4名
3	どちらともいえない	2名
4	どちらかといえば発言しにくかった	1名
5	発言しにくかった	2名

「発言しやすかった」「どちらかといえば発言しやすかった」と回答した理由（一部抜粋）

- ・記録してくれていたのので、意見を出すことに集中できた。
- ・ブレイクアウトセッションのグループが世代的に近かったこともあり、話が盛り上がった。
- ・チャットでもOKというのが、話す人、文章を使う人、それぞれ使い分けることができて良かった。
- ・ファシリテーターの方のユーモラスな進行で緊張が解けた。うまく話を拾ったり広げていただいたり、話しやすい雰囲気づくりへの配慮が素晴らしかった。
- ・ファシリテーターが自分の意見をしっかり聞いてくれ、共感してくれたり、まとめてくれたので話しやすかった。

「発言しにくかった」「どちらかといえば発言しにくかった」と回答した理由（一部抜粋）

- ・自分の言いたいことを言って良いのか、前の人が話したことに対して発言したら良いのか、わからなかった。
- ・発言しやすい雰囲気を作っていたいただき、参加しやすかったが、時間と人数も多かったことで遠慮気味になってしまった。
- ・オンラインの難しさではあるが、指名された人のみの発言となってしまうため、発言について掘り下げていくまでに至らなかったのが残念。
- ・意見を言うタイミングがわからなかった。
- ・順番を待ってからでないと言えない印象を受けた。

#### その他（参加してみたの感想、開催にあたっての要望）

- ・社会問題や学びについて、違う角度から実践している方と話ができ、共感・共有・連携できる場となり、貴重な経験になった。
- ・参加者の意見に対して、市側は何を実現してくれるのかフィードバックがほしい。
- ・皆さんと共通する思いがあると分かり、勇気づけられた。
- ・予想以上に充実した時間で、時間が足りないと感じた。個々に筆記をする時間をとるのではなく、雑談からアイデアへ発展させていくことに時間を使えると、より精度や満足度が上がると思う。
- ・オンライン会議には縁がないと思っていたが、時代の流れを感じる良い機会になった。たくさんの意見を引き出してもらったので、ひとつでも多くのことが実現されたり、改善されることを願っています。
- ・初めてこのような場に参加したが、長野市の子育て支援や行政サービスの充実につながる良い意見収集の場だと感じた。今後も継続的な開催を希望する。
- ・オンラインでの意見交換の場は初めてだったが、思っていたよりはハードルは低かった。参加してみて良かったと思う。



- ・投票以外にも、行政機関に自分の意見を伝えられる機会が少なかったので、とても良い機会になった。今後もこのような機会があったら、積極的に参加したい。
- ・今回の意見が、今後市政にどのように活かされたのかを具体的に教えてもらえる、自分が参加した意味があったなと感じることができると思う。
- ・事前にワークシートなどを記入し、それをもとに考えを深掘りしていけば、考えを伝えそびれることもないし、時間を有効に使えると思う。
  
- ・今の現状をより良くしたいと思って参加したが、よくわからない内容に終わってしまった。もっと話を聞きたかったし、意見を言いたかった。
- ・会の趣旨や進行についての、事前の説明が不足しているところがあり、残念だった。
- ・オンラインでのグループワークは難しいと改めて感じた。